



中学・高校生ら研究成果競う

グランプリは福岡・香住丘高

熊本でサイエンスインターハイ

九州の中学・高校生らが自然科学に関する研究活動を競い合う「サイエンスインターハイ@SOJO」が26日、熊本市西区の崇城大（中山峰男学長）で開催された。九州6県の16校から約470人が日頃の研究成果を披露し、交流を深めた。

崇城大は理系教育に力を入れる。若者の「理科離れ」が問題となる中、青少年の科学への関心を高めようと毎年開いており、今年で6回目を迎えた。

会場では、理数系学科や理系部活動所属の生徒らが、研究成果を模造紙やパネルにまとめて発表した。

「『副実像』の出現位置の数式化に成功」（熊本県立宇土高）、「スペースデブリの除去を目指して」（福岡県立小倉高）など、生物や化学、地学、物理の知識をフル活用した高度な研究ばかりだった。

審査の結果、最優秀のグランプリには、福岡県立香住丘高校の「形状記憶合金を用いた介護入浴支援装置の開発」が輝いた。準グランプリには熊本県立宇土高校と鹿児島県立国分高校が選ばれた。

人を笑わせ考えさせるユニークな研究に贈られる「イグ・ノーベル賞」受賞者による特別講演もあった。